

平成29年度 第1回豊橋市総合教育会議議事録要録

平成29年6月15日 開 催

豊 橋 市 教 育 委 員 会

第 1 回 総合教育会議	
日時	平成 29 年 6 月 15 日 (水) 午後 3 時 30 分～5 時 15 分
場所	市役所東館 4 階 政策会議室
構成員	佐原 光一 市長、山西 正泰 教育長 朝倉 由美子 教育委員、高橋 豊彦 教育委員 芳賀 亜希子 教育委員、渡辺 嘉郎 教育委員
事務局	加藤 喜康 教育部長 駒木 正清 教育監 山本 誠二 教育政策課長 木下 智弘 学校教育課長 角野 洋子 教育政策課主幹 小田 恵司 保健給食課長 稲葉 俊穂 財務部長 牧野 正樹 財政課長 吉原 郁仁 こども未来部長 鈴木 教仁 こども未来政策課長 種井 直樹 こども家庭課長 山田 浩一 こども家庭課主幹 こども若者総合相談支援センター副センター長 竹内 泰子 ほか 7 名 全 20 名
その他	傍聴人 0 名

議 事 日 程

市長あいさつ

協議事項

- 1 不登校対策：適応指導教室の環境整備と学習支援の充実に向けて
- 2 子どもの貧困対策について
- 3 今後の協議事項について

連絡事項

- ・次回開催日程

平成 29 年 9 月 7 日 (木)

(市長)

初めに、「**適応指導教室の環境整備と学習支援の充実に向けて**」について説明をお願いします。

協議事項

1 適応指導教室の環境整備と学習支援の充実に向けて

■学校教育課長 協議事項について資料説明

(市長)

ご意見ありましたら、お願いします。

(渡辺委員)

先日は、麦笛ひろば(東)を見学させていただいたところ、教室の中は比較的明るく、環境的にはよいと思いました。しかし、明るい施設を目指すという点から考えると、玄関、階段、廊下等、入り口から部屋までの動線がかなり暗いと感じました。通いたいという気持ちには、なりにくい環境であると感じました。

(市長)

実は、くすのき特別支援学校の設計をする時に、1番に子どもが毎日行きたくなる学校にするというのを合言葉にしました。そういう視点で考えていくことが大切です。アイプラザの3階は、緑もあり、南栄駅近くで通いやすいという施設であると思います。

(高橋委員)

説明の中で、例えば豊田市の不登校からの復帰率が21パーセントで高い復帰率であるという話がありましたが、豊橋市の復帰率と同じ基準で算出した数字であるかが疑問です。名古屋市も復帰率も高いですが、この数字の優位性もしくは理由を補足説明してください。また、資料に、適応指導教室の体制として、相談員1名、嘱託員1名とありますが、連携して相談を進めるには、色々な人が関わり手厚い体制にしていくことも考えないといけないと思いました。実態を見えやすくするという点でも、体制をどうするかについて、議論する必要があると思います。

(学校教育課長)

豊橋市の昨年度の復帰率で言いますと、実際に学校に完全復帰ができたのが5人で、その割合が16.7%となります。名古屋市の復帰率43.6%については、1年間のうち少しでも学校に足が向いた割合なのか、完全復帰できた割合なのか、把握できていません。全国統一して出したデータからの資料ではありません。

(高橋委員)

数字だけを見るわけではありませんが、名古屋市のように復帰率等、よいデータが出ているところには、よい手だてがあると考えると、参考にすべき点が見えてくると思います。

(渡辺委員)

名古屋市は、週に1回、臨床心理士が入り、スクールソーシャルワーカーも常駐しているということなので、うまく機能しているかもしれません。豊橋市のように相談員と嘱託員だけではなくて、スキルを持った方がいることで、救える子がいるのではないかと思います。

(学校教育課長)

豊橋市では、麦笛ひろばに月に1回臨床心理士が入っています。

(教育長)

学校で休みがちになった子には、スクールカウンセラーをあてていくわけで、完全に休んでしまい麦笛ひろばに通っている子には、それ以上に手厚くしていかなくてはなりません。

(市長)

学校に行けなくなった場合に、学校で相談を進めていたスクールカウンセラーとは、関係が切れてしまうのですか。

(教育長)

学校での相談を手いっぱい状況ですので、切れてしまうことになります。その子に関り続けて、麦笛ひろばに通うのは、なかなか難しいことだと思います。愛知県の場合は、カウンセラーは交通費込みでの勤務なので、午前中はある学校に勤務し、午後に別の学校に勤務するとなると、交通費は自費となります。

(渡辺委員)

麦笛ひろばに通っている子の中に、発達障害の子もいると思うので、臨床心理士だけでなく、医療面でも関わらないといけないと思います。浜松市の場合、スタッフの中に、医師が入っています。ここがうまく機能していくと効果があるのではないかと思います。

(市長)

就学前は、医療的なサポートがあっても、就学するとなくなってしまうこともあります。

(学校教育課長)

先ほど高橋委員が言われた体制の中で、不登校の子どもたちを対象に週1回の面談をしていますが、それは、ある時はスクールソーシャルワーカーで、ある時は相談員でというように毎回違う人が面談をしていると聞いています。複数の大人と話をするのは、効果的なようです。

(高橋委員)

色々な人と関わり、多様な価値観にふれることで、よりよい方向に向くかもしれません。

(市長)

名古屋市では、適応指導教室にどのように通っているのですか。

(学校教育課)

名古屋市では、市営の公共交通機関で学割が適用されるので、バスや地下鉄で通ってい

るそうです。

(渡辺委員)

得意なことを一生懸命伸ばして自己肯定感を持たせることが、不登校につながらないと思います。

(市長)

適応指導教室に通う子どもたちも、ここで何を見つけるかということが、学校復帰につながると思います。

(教育長)

そういう意味でいうと、現在の麦笛ひろばのスタッフは、お世話役になっています。スタッフを見直すことは必要かもしれません。麦笛ひろばに通い始めた子の保護者は、ほっと一安心します。家にずっといた子が外に出られるようになって、学校復帰に一步近づいたということです。

(渡辺委員)

学校復帰に近づける支援のできる専門的スキルをもったスタッフが必要だと思います。

(朝倉委員)

麦笛ひろばのスタッフは、記録をとり、継続的な支援ができるようにしていると思うので、それをもとにしたスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーからのアドバイスはあるのですか。

(教育長)

月1回ですから、なかなか難しいです。

(朝倉委員)

そうすると、子どもの小さなサインをとらえようとした時に、専門的な見方のできるスタッフがいないことは、残念なことだと思います。あと、現在も保健室登校する子どもはいますか。

(教育長)

保健室で受け入れている学校と受け入れていない学校があります。体調不良の子どもが休めるように、別室を利用している場合があります。

麦笛ひろば東は、音楽中心で、年度末に行う音楽発表会に向けて練習をしています。

麦笛ひろば西は、運動場があるので、運動を中心に行っています。これらを融合させて、例えばどこか中央において、そこに両方の子ども達が集まり、スタッフとともに見直すこともできると思います。何か手を入れないことには、変わりません。

(芳賀委員)

週1回ぐらいで、臨床心理士かスクールソーシャルワーカーに関わった方がよいと思います。発達障害なのか、心が要因になっているのかで、関わり方が違います。どんな言葉かけなのかで、大きく方向が変わると思います。また、月1回程度だと、子どもたちの

心の波に対応するのは難しいと思います。麦笛ひろば東と西に加えて、第3の場所を考えることも大切だと思いますが、人的な支援として考えたいです。

(教育長)

名古屋市が、スクールカウンセラーを50名増員したため他の市では人材が不足している状況があります。

(高橋委員)

豊橋市独自で、今後人材育成を考えないといけないと思います。

(教育長)

スクールソーシャルワーカーは社会福祉士で、スクールカウンセラーは臨床心理士会の資格で、その資格を取れるところは少ないようです。人材育成を進める働きかけは必要です。

(市長)

色々なものがAIに置き換わっても、スクールカウンセラー等は置き換わらない大切な役割で、子どもと接する未来永劫ある仕事で、より一層重要だと思います。

(朝倉委員)

需要はありますが、資格をとるハードルが高くてなり手がいないのかもしれないです。

(教育長)

スクールソーシャルワーカーは、資格をとるのがなかなか難しいです。

(高橋委員)

資格をとって仕事としてやっていけるのかなど、道筋がわかりにくいのかもかもしれません。

(教育長)

現在の体制を見直さなくてはいけないことは、確かです。

(市長)

一度、理想形を描いてみることは、必要です。そこを目標にどうしたらよいか考えることが必要です。もう少し、担当部局で場所を含めて調べてもらって、まず目標とする姿を考えましょう。そして、どうやってそこにたどり着くかについて、議論していきましょう。

協議事項

2 子どもの貧困対策について

■こども未来政策課長 協議事項について資料説明

(市長)

確認したいことやご意見ありましたら、お願いします。

(渡辺委員)

貧困率について国の場合は、16.4%でしたが、本市の調査では、約6%と少ない状

況です。この結果の要因を考えると、このアンケートを提出していない世帯があつて、調査結果に実際の貧困世帯が含まれていないのではないかと考えます。

(こども未来政策課長)

その点については、その通りで、貧困世帯の方はこのようなアンケートを敬遠する傾向があるようです。

(渡辺委員)

この調査から、貧困世帯全体の実態を推し量るのは難しいかもしれません。

(教育長)

14ページの保護者へのアンケートで、生活困窮の状況にある人のなかで、福祉制度を知らないという人が多い結果を見ると、何か対策を考えないといけないと思います。

(芳賀委員)

広報を見たり、確認したりする時間がないというのも大きな要因ではないでしょうか。余裕がないという状況だと思います。

(渡辺委員)

この前出された「子ども若者白書」では、ひとり親世帯の貧困に対する支援が4つ書かれていました。その1番に、「支援が必要な者に行政のサービスを十分行き届けること」とありました。まさにこれですね。2番目に「複数の困難なことを抱えている者が多いため、一人ひとりに寄り添った伴走型の支援を行う」とありました。3番目に「一人で過ごす子どもが多いため、学習支援を行うこと」、4番目に「安定した就労を実現するように支援すること」が書いてありました。どれもすごく大事なことです。お年寄りにはケアマネジャーがいますが、子どもたちにはケアマネジャーがいません。行政でしたらソーシャルワーカー、医療だったら発達センターの保健師、学習に関しては教員OB、この3者が子どもに寄り添って、サポートしていかなくてはいけないと思います。

(朝倉委員)

生活困窮世帯の保護者に、心を開いてもらうアプローチも必要です。また、キャッチコピー等から、公的な資料に目を通してもらう広報もできるとよいです。

(芳賀委員)

大学では、子ども自身に公的なサポートについて知らせ、子どもが自立し同じ困窮状況を繰り返さないように働きかけをすることもできると思います。

(市長)

親と子の両方に知ってもらうようにしないといけないと思います。

(高橋委員)

子どもにも、社会福祉として公的な支援について学ぶ機会があるとよいです。

(教育長)

社会福祉の制度について学ぶ出前講座は、現在はありませんが、出前授業で取り上げていくのも一つの方法だと思います。中学生の段階で、制度について知ることも大切です。

夢をもっていてもお金が十分ないから夢をあきらめてしまう子にとって、制度によるサポートで夢に向かう可能性が生まれます。

(高橋委員)

早い段階から、このような講座を取り入れることができるのではないのでしょうか。

(市長)

いろいろ相談すれば、夢をかなえる道筋があることを伝えるためにも、相談機関について考えていきたいです。

(こども未来政策課長)

資料にありますように、本年度から相談の窓口で教員OBにも入ってもらうことなどを考えています。

(芳賀委員)

たくさんの制度があってわかりづらいので、どの制度が当てはまるのかを、提示することが必要です。

(朝倉委員)

保護者と子どものアンケートの回収率が似ていますが、どのような調査の流れでしたか。

(こども未来政策課長)

封筒の中に、保護者と子どもの用のアンケート用紙を一緒に入れて、学校で配付してもらいました。そして、ナンバリングをして、集計をしました。

(渡辺委員)

アンケートに見えてこない貧困家庭に対するサポートについて、考えないといけないと思います。

(教育長)

昔、お米がないと泣いた子どもがいて衝撃を受けました。そのような家庭を救わないといけないと思っています。

(渡辺委員)

若者が安心して生活をして子どもを産んで育てられる町になるとよいです。

(市長)

一人ひとりに寄り添った生活支援の仕組みを考えていきたいです。

3 今後の協議事項

教育政策課長 資料説明

連絡事項

- ・次回開催日程

平成29年9月7日(木) 15:00～